

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
60	川崎市立下作延小学校	棟居 謙

学校教育目標	今年度の重点目標
○心身ともに健康で豊かな心情とたくましい実践力をもつ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う楽しさを知り意欲的に学習する ・互いの違いを認め合い、思いやりの気持ちをもつ ・主体的に活動し自己有用感を育む ・健康で安全な生活を送る ・地域のよさを生かした学習をし愛着を深める

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 ①基礎・基本の確実な習得と活用する力・互いに高めあう子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科を通して学ぼうという意欲を高め、「わかる」「できる」「楽しい」を実感し、共に学び合う子供を育てる。 ・習ったことを生かし、意欲をもって学べるよう導入を工夫する。また 具体物やノートを活用し、考えを整理したり、振り返りをしたりして次の学習につなげる。 ・朝の短時間学習等を通して、基礎基本的な問題に繰り返し取り組み、知識理解の定着につなげる。また、学習状況調査の結果等を参考にして各学年の実態に合った取り組みをする。 ・『何を学ぶか』だけでなく、『どのように学ぶか』を重視して、主体的、対話的で深い学びを視点にした授業改善を意識して進める。 	<p>□校内研究で行った生活科や社会科を教科の軸として、学習問題を作ったり、学習計画を立てたりする「学び方」を大切に指導した。学習の見通しをもったり、1時間ごとのつながりを意識しながら、主体的に取り組む児童の姿見られた。また、既習を生かして思考したり、自分の考えを伝えたりする力が他の教科にも生かされている姿が見られた。</p> <p>□朝の短時間学習では、各学年で育てたい力に合わせて内容を考えたり、個の習熟度に合わせた課題を設定したりしながら取り組み、知識理解の定着につなげることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆「基礎基本を定着するための習熟の内容」と「育てたい力に合わせた内容の実施」について、その配分に難しさを感じた。両方をバランスよく計画的に行っていく必要がある。 ◆川崎市学習状況調査の結果を分析し、各学年で身に付けたい力を明らかにし意識して指導にあたる。
2 ②個に合わせた支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導(5年生までは35人以下学級編成)、サポーターによる支援や学習センターを活用した指導や支援等を行う。 ・少人数指導のよさを生かし、これまでもより計画性をもって子供の「わかる」「できる」姿が見られるように支援を充実させていく。 ・教科担任制による指導内容の充実を図る。(3年生以上では、指導する教科をしぼることで、教材研究時間を確保し、指導力の向上を図る。) ・指導人数の体制にとらわれるのではなく、それぞれの学級内で有効な支援方法を考え、日常的につまづくことが少なくなるような指導を進める。職員同士、よりよい指導方法を積極的に共有する。 	<p>□5年生を3クラスにしたことなど、全学年で適当数の学級編成となり、児童の学習の充実が図れた。</p> <p>□教科担任制によって、学年児童の理解につながった。あわせて学習状況把握し指導に生かすこともできた。</p> <p>□教科担任制によって、学習指導の均質化につながり、学級間の指導の格差もなくなった。</p> <p>□取り出し支援(学習センター)について利用児童は、「わかる」が実感でき、学習意欲を高めていくことにつながった。多様な学習の場の確保になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆担当する教科の教材研究をさらに充実させて、子供にとってよりよい授業をめざしていきたい。 ◆学びの個性化・個別化を意識した学習活動を研究し習得し進める。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
3 ③防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・防犯訓練の想定ややり方を工夫したり、自分の身を守るための指導を行ったりする。 ・保護者と共に学び、地域とつながる防災教育を工夫し実践する。地震・火災の他、洪水や台風等の避難も視野に、朝会の活用やカリキュラムを再考し、より充実した防災・防犯教育に取り組んでいく。 ・防災教育を通して、備える大切さを地域に発信し、有事の際児童の安全確保はもとより、避難所となる学校施設を有効に活用できるよう、地域住民の避難所利用の理解を進める。 ・保護者・地域との合同訓練の計画や新1年プログラムに避難訓練マニュアル動画での指導などを組み込んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> □「自分の身は自分で守る」という意識を強く伝える。アンケート結果についても3者そろって関心の高い教育活動になっている。その成果も出ている。 □コミュニティ・スクール委員の中でも防災担当を設定したことで、地域と一体となって、すすめていく体制が整ってきた。 □避難所開設訓練には、4年生も参加し学習の発表をすることができた。また地域や役所の方からもお褒めの言葉をいただいた。訓練に参加する保護者も多くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆一年通して、保護者とともに備える大切さについて考えるプログラムを作る必要を感じる。(防災バックの中身を再考し、災害への備えをさらに高める等) ◆有事の際を想定し、西高津中学校と連携し、中学在籍兄妹の引き取り訓練を実施する。 ◆着衣泳について保護者からの問い合わせがあった。5年が取り組んでいることをより発信するとともに、保護者にも参加&参観してもらえるような機会にしていく工夫などを考える。
4 ④情報教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を利用して、機器の端末操作方法を系統的に指導し、適切に活用できる力と態度を育成する。 ・発達の段階に合わせて系統的に情報モラル教育を進め「適切なコミュニケーション」の力を育てる。 ・情報モラル教育は全学年において行い、家庭と連携をしていく。また、トラブルを未然に防ぐ指導を行っていく。配信システムでも、情報モラルについての資料を配付していく。 ・日常の学習に効果的に利用できるスキルを大人も子供もつけていく 	<ul style="list-style-type: none"> □ドリルパークの「個別最適な学び」を効率的に使うことやクラスルームで授業課題を出すことなど、日常的にGIGA端末を活用し、教育活動に生かすことができた。 □情報モラル教育について、年間計画に則り、外部講師を招くなど情報モラルの学習をすることで、情報モラルについての意識付けができた。 □長期休みの宿題で情報モラルの動画を保護者と視聴し、児童が情報を安全に使うことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教職員がGIGA端末の様々な使い方ができるように互いに情報を共有をしたり、研修をしたりすることで、児童にとってGIGA端末をより適切に活用できる力と態度を育成できるのではないかと考えている。 ◆教職員が研修を通して、GIGA端末の効果的な活用方法を学ぶことで、児童にとってよりGIGA端末を活用し、授業に生かす力が育成されると考える。 ◆引き続き情報モラル教育については、保護者と共に学ぶ時間を増やしていく。
5 ⑤健康教育・運動する子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の体育授業や養護教諭・学校栄養士による健康に関する授業や日常的な衛生管理への意識を高めるなど、健康や体力に関心をもつ子供を育てる。 ・感染予防対策は継続して徹底し、年間を通して特別活動のカリキュラムを見直しながら、衛生指導、歯磨き指導や食の授業、保健・給食・集会委員会等、子供と協力した活動を引き続き充実させていく。 ・きらきらタイムの充実を図り、運動の楽しさを体験することから、体力や運動への関心をより高める。保護者とともに子供の健康について考える機会をつくったり、学校保健委員会の組織や内容に関して再考していく。 	<ul style="list-style-type: none"> □多岐にわたる競技の外部講師来校授業により、児童の運動する楽しさ・喜びにつなげることができた。 □保健指導については、委員会活動等を通して児童が主体となって進めていくことができた。 □きらきらタイムについては、児童の体を動かす機会を定期的に設定することができ、体を動かす習慣を全校で身につけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆運動の日常化を図るために、次年度から川崎市が取り組むかわさきキラキラチャレンジの提案企画をベースに、キラキラタイムのさらなる充実を図る。(キラキラチャレンジは、他校とその取り組みを共有交流していく予定)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
6 ⑥命の重さや価値を実感し、思いやりの気持ちをもつ	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の教育活動を通して、自分も相手も大切にできるように努める。(人権週間、子どもの権利学習、SOSの出し方・受け止め方教育、行事など) ・美しいもの、素晴らしいものにあたり、感動したり、生き生きと生活する大人に触れたりして、心が豊かになる時間を過ごすことができる機会を計画的につくる。 ・人にやさしくしたり、役に立ったりした時に自分の心も豊かになることを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □職員研修や日頃の情報共有、支援方法の検討など、日常の児童の姿から児童を理解し、教職員全体で共有するようし、チームで対応に努めた。大人の意識の変化が子どもたちに伝わっていると実感がある。 □日常の学校生活や行事での各学年での活躍やそれを受け止める姿、他学年を意識して取り組みを考える姿が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆保護者・地域への発信の課題。授業公開とともに、日常の活動の足跡や活動の意図の掲示するなど、子どもたちを取り巻く環境をよりよくしていくために学校の取り組みや子どもの実態の認知度をあげ、ともに考えていくための工夫が必要。
7 共生・共育の実施、コミュニケーション力の育成、いじめを許さない学校風土	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年6時間の「共生＊共育プログラム」を行い、社会性のスキルの習得に努める。 ・「学校生活アンケート」を実施し、一人一人の思いをくみとることで、いじめの防止に努める。 ・教職員はいじめ防止委員会を計画的に開催し、教職員で課題を共有しながら、いじめ防止・問題解決に努める。 ・支援教育コーディネーターを中心に子供の心に寄り添ったチーム支援を行う。 ・運営委員会による呼びかけだけでなく、児童自身がよりよい学級や学校を創ろうという意欲を持てるようにしていく。 ・教職員も継続して取り組み、子供とともに居心地のよい学校、学年づくりを推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> □学校生活アンケートの実施は、回答をもとにして子どもの声を聴く機会として重要なものとなっている。安心できる環境づくりやいじめ防止につなげることができた。 □支援教育コーディネーターを中心に、担任と情報を共有して、その児童にあった支援をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆いじめ防止について、研修や会議等で教職員で共通の認識をもつ機会を設け、児童の情報を共有することを継続していく。また、支援教育コーディネーターを中心に、学校巡回カウンセラーをはじめ広い視野での連携を図ることで保護者の不安にも寄り添えるようにしていく。 ◆共生＊共育プログラムは、児童一人につき六年間で積み重ねている。社会性スキルの習得として日常生活に繋げていけるような工夫をしていく。(声かけ・教科や行事との連動)
8 皆が気持ちよく過ごせるための規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物や全校ミーティングなどで、子供たち自身が気持ちよく過ごすことができる学校生活のルール作りについて考える機会を設ける。 ・クラスでの生活目標や個人での「生活ふり回りカード」を通して、規範意識の育成に努める。 ・子供たち自身が、互いに気持ちよく過ごすためのルール作りや意識づくりに引き続き参画できるようにする。 ・他者に対する感謝の気持ち、ルールを守って生活することの大切さを継続して指導していく。 ・落ち着いて生活を送るために、自分を制する気持ち、我慢をする経験等についてはさらなる成長が必要と感じているため、社会生活に必要なスキルを育てていく指導を再考していく。 	<ul style="list-style-type: none"> □生活目標について毎回クラスで話し合い、具体的な行動を振り返ることや、全校ミーティングを体育館集合の形で行ったことで、子どもたちの意識は変わってきた。自分ごととして物事を考えられるようになってきた。 □あいさつボタンや、廊下の学年別ゴミ箱設置など、楽しみながらできる工夫をして、自分たちが考え、決めたことを行動するという経験ができた。 □上級生の姿を見て、真似をしてみたいと思っている子どもの姿が見られた。ルールや規範、学校への思いが下の学年にボタンとして繋がっている様子も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆日常生活に表れるように、これまでの活動の地道な継続が大事と考える。 ◆掲示やHPなどへ記録を残すことで、子どもたちへの価値づけと保護者・地域への発信をしていく。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
9 主体的に取り組む気持ち、自己有用感の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動・クラブ活動、係活動その他の活動において、子供たちの発想や意欲を生かした活動に取り組む、自分たちで楽しい学校をつくれるように指導する。 ・運動会、かがやき発表会など児童の発想から活動が進められるようにする。 ・行事を通して協働し、連帯感・達成感を味わわせる。 ・児童の発想を生かし、意欲を高めることができるような指導を丁寧に行うとともに、行事内容を精査し、より効果的な実施時期について再考していく。 ・取り組んでいる学習活動はSDGsの何に関わっているのか意識した提案、実施を大切に、指導を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童が自主的な活動の意味を理解し、その活動も充実してきている。そのための指導についても、教職員が児童の思いを尊重し発想を生かしながら、形となるように児童とともに丁寧にすすめ、連帯感・達成感をもたせていくことができた。 □行事内容を精査し、その行事で児童にどんな力を培うかを明確にし実施し、成果があった。 □特に保護者からのコメントも肯定的な内容が多かった。 □あらゆる学習活動でその活動はSDGsの何に関わっているのかを意識した提案、実施を大切に、指導を継続したことで、特別活動はもとより、各教科においても、SDGsへの意識を高めていくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの自主性というものは時間のかかることなので、見直しをもって4月から行われている活動を通して子供たちに力(自主性・創造性等)が身につくようにしていきたい。 ◆子供たちの発想の実現のために、地域・保護者と協働し、創り出す楽しさを経験できるようにする。
10 危機管理・施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法・AEDやアレルギー研修、学校安全マニュアルを活用する。 ・日頃の感染防止対策の徹底、教職員による清掃および消毒作業、子供の作品や学習に生かせる掲示物の工夫などを行い、清潔な空間を心がける。 ・地域の安全見守り、避難所運営会議、PTAと連携し児童の安全確保を図る。 ・感染予防教育や交通安全教育、薬物乱用防止教育等を実践し、安全に対する意識向上を目指す。 ・教育委員会、地域、保護者と協働し、学校施設設備環境の改善に努める。 ・新たに川崎市より示された防災対策指針に沿った、校内版学校安全マニュアルの再作成に早急に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> □防犯研修を実施。ステップを踏んで研修の内容を考え実施することができた。 □プールが再開し、事故や怪我無く無事に行うことができた。 □掲示物については、児童の活動が残るように工夫することができた。 □コミュニティ・スクールと連携し、教室内照明のLED化を教育委員会に要求することができた。今後も継続して要求していく。 □着替え用のカーテンが教室にあることで、体育時に移動することなく同じ部屋で着替えることができてよかった。 □新たに川崎市より示された防災対策指針に沿った、実際に見合った校内版学校安全マニュアルを作成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆理科室前のモニターのさらなる活用をすすめる。(運動会・各学年行事など) ◆低学年の教室及び5年3組教室への着替え用のカーテンの設置、正門、西門の門扉交換、プールの給水バルブ漏水修理、西門横花壇給水水道管バルブの改修、図工室のエアコンの修理、屋上高架水槽の更新、GIGA端末充電庫の設置、教室扉の交換、などなどを引き続き要求していく。 ◆教室で使用するものについて、もう少し整えていきたい。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
11 地域に愛着をもてるような教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科・総合的な学習の時間・社会科の学習、行事等で地域の「人・もの・こと」との出会いやふれあいを通して地域を愛する気持ち、感謝の気持ちを育てる。 ・目的をもって地域に出かけ、地域のよさを実感する活動を取り入れる。 ・積極的に地域教育資源を開発し、地元企業との連携した授業開発を進める。 ・日頃から「下作延小PRIDE」「かわさきPRIDE」を意識した学習活動に取り組んでいく。 ・コミュニティ・スクールのサポート部門を構築し、地域・保護者のさらなるサポートの充実を目指す。 	<p>□これまでの作成してきた年間カリキュラムや人材リストを活用しながら、地域と関わる機会を計画的に設定して学習を進めることができた。その結果、地域の「もの・こと・ひと」との出会いから、地域への愛着を強める子供たちの姿が感じられた。</p> <p>□かがやき交流DAYでは、地域で活躍する大人と、体験活動を通して関わることで、普段はできない活動をすることができた。地域の人に見守られながら成長していることを実感したり、感謝の気持ちをもったりするよい機会となった。</p> <p>□夢パークや緑ヶ丘霊園などの地域教材を生かして学習することで、地域に愛着を感じながら学習に取り組むことができた。</p> <p>□園芸教室では、専門的な知識のある方に教えていただいたことで、より手厚いサポートを受けて、意欲的に取り組むことができた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆学年としての取り組みは行うことができたので、低・中・高学年ごとや学校全体での地域の関わりを計画していけるのではないかと考える。 ◆地元企業との連携した授業開発に向けて、今年度取り組んだ内容を来年度に引き継いでいく。 ・プログラミング学習（フロンターレ アルファメディア） ・フロスタオンラインサイト制作（フロンターレ） ・かわさきキラキラチャレンジ（富士通） ・緑化プログラム（緑化フェア 富士通 鶴見川流域ネットワークキング） ・スポーツ教室（かわさきスポーツパートナー、市民スポーツ室） ・キャリア教育（NECレッドロケッツ） ・100年後の下作延（N-ASSET）
12 学校評価を生かした教育の改善・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り・学年便りにおいて教育方針や児童の様子を保護者・地域の方々にお知らせしたり、随時ホームページを更新する。 ・保護者向けの手紙、調査結果等メールによる配付をします。紙文書の削減のために、ミマモルメやホームページによる文書配付を進める。 ・学校教育推進会議でのご意見や保護者アンケートを学校改善に役立てる。 ・学校評価では、中間報告を取り入れ、PDCAの4つのサイクルを通り、らせん状の評価を行い、改善すべき点は即時改善が図れるようにする。 	<p>□昨年同様に、子供たちの教育活動の様子について、各学年からホームページで詳しく紹介することができていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校評価アンケートの回答数が下がってきている。重要な情報を漏らさないようにしていくためにも、ミマモルメのアプリ登録をすすめていきたい。 ◆一つ一つの柱立てについて、教職員の学校運営に向けた意識についてまだ課題がある。個として何ができるのか。意識づけになるような機会を年間に数回設定していく。 ◆中間報告を取り入れたり、各行事後のアンケートと学校評価を一致させたりする工夫をすすめる。 ◆子供たちの学習活動の様子にあわせて、学校として、その教育活動にどんな思い願い、ねらいがあるのかを事前に保護者に丁寧に伝えていくことをこれまで以上に進めていく。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
学校関係者の評価	学校運営のまとめ		
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に活動している様子は授業参観やホームページなどを見てよくわかる。素晴らしいことだと思う。今後も続けていってほしい。 ・施設管理については多くの課題があることを理解した。今年度の課題をまとめ意見書を作成する。 ・情報モラルについて家庭と連携したことを評価している。家庭の教育力を高めることは学校の仕事なのか。 ・これだけのことを先生たちが取り組んでいることに驚いた。教員の負担について報道がされているが下作延小の先生は大丈夫だろうか。心身ともに大事にしてほしい。 ・自分の学生時代の担任を思い出すと特色のある先生が一番覚えている。子供たちにとって魅力ある教師でいてほしい。 ・コミュニティスクール委員と共に、年度の活動をふりかえる時間は興味深く、大変貴重だった。 	<p>○学力向上、学習の定着 2年間行った川崎市学力状況調査をもとにした学力分析の経験を生かし、年間も通して目指す子供像に向けた手立ておこなう。また、交換授業を中心とした教科担任制を進め、学習指導の均一化に努める。高学年においては専科教員を増員し専門的な指導の充実をはかる。何よりも「わかる」「できる」「楽しい」を大切に学習活動を目指す。</p> <p>○安心して過ごすための児童支援 支援教育コーディネーターを中心に、児童の心の安定が図れるよう年2回の生活アンケートやいじめ防止プロジェクトに取り組む。学習センターでは、非常勤講師による学習支援を行い、安心してクラスで授業に取り組めるようにする。保護者と共に子供の心の成長に関する研修を行う。</p> <p>○施設の老朽化に伴う対策 体育館改修、エレベーター設置が令和7年度着工となるが、施設設備の老朽化による修繕箇所は日に日に増えている。優秀な用務員の存在で、安価に修理ができていたが修繕費はすぐに底をついてしまう。教育環境整備推進室への依頼はなかなか実現しないので、別建てで材料費など供出していただきたい。区内の優秀な技術をもった用務員チームに依頼し各校の修繕にあたるのはどうかと思う。コミュニティスクールとしての意見書を提出する予定。</p> <p>○コミュニティスクールとしての取組 学力・安全・環境・デジタルの4つの分野における担い手を確保したい。学校報告会では、下作延小PRIDEからSIMOSAKUNOBE PRIDEへということで、地域全体でこの学校を運営することを目指す。現在デジタル部門を中心に積極的に取り組んでいる。環境ボランティアが確保できれば、緑化フェアに向けた取り組みを大きく後押ししてくれることと期待している。</p>		